

三田学入門講座を聴講して

鉄道技師九鬼隆範の足跡

また一人三田出身のインテリを見つけました。三田市屋敷町に佇む旧九鬼邸を設計した、九鬼隆範氏だ。郷土史家 藤田裕彦氏によれば、ペリーが来航した嘉永の年、1853年に今となっては言えるが、彼は少々、時代錯誤である砲術や用兵学を学んでいる。ところが1864年前後には、勝海舟の門に入り、欧州戦術、砲術、築城術、測量

術を学び直している。武家の師弟の勉強と言え、普通は四書五経、儒学、朱子学などであるのに、この方の頭脳は理数科系であったと言ふことは、私ごとから見ると川本幸民とも大変うらやましい存在だ。ところが、明治元年1868年、三田に戻り、川本幸民・清次郎父子が開いた「英蘭塾」の一番弟子になり、英語や蘭



学も勉強したという。所詮、IQの高い人というのは、理数科系とか文化系とかにこだわらないのだなあとというのが実感だ。勝海舟の海軍操練所が、幕藩体制崩壊後閉鎖された後も、佐藤政養氏の塾で測量術や土木工学を修めている。その技術をもって設計された旧九鬼家住宅。神戸北野の異人館よりも20年も早い時期に建てられたという。この九鬼家住宅を拝見すると一階は単なる武家の住宅で、二階のテラスが洋風かなあと思うぐらいであつたが、現代の人達が、鑑賞する感覚とその当時の人達の感覚とを比べてみると時代背景が重くのしかかる。廃藩置県により九鬼隆義は神戸へ出て行き、それに伴って家臣達も追随した。三田の屋敷町は士分の在りわ

か十数戸と寂れてしまったらしい。なるほど、なるほど。明治の新政府になった時代、日本全国でこの様な現象が起きたに違いない。武士達は新天地を求めて日本全国を移動した。三田藩士達は、神戸移住組みと北海道移住組みとに分かれた。それは時代の流れである。武士達も生きるか死ぬかの混沌の時代だ。ところが、今でも三田の地の人達からこんな声を聞く事が頻繁だ。「九鬼さんは、三田の地を捨てて、神戸に出て行ってしまつた人だ。三田で何にもしてくれなかつた。だから九鬼、九鬼と言ふな！」これも、やはり日本全国同じであろうか？その寂れてしまつた屋敷町に九鬼隆範の建てた「白壁の擬洋風建築」。「家老の九鬼さんは三田に残るのだ。われわれを見



捨てない。！」そんな期待と喜びと新しい文明を見る興奮で觀賞したに違いない。こういう思いでこの旧九鬼家住宅を觀賞すると又、ちがった味わいがある。忘れてならないのは、九鬼隆範は、鉄道技師として混迷の明治初期に活躍したことだ。今こそ日本には新幹線もあり「世界に冠たる鉄道王国」だが、その草創期には、技術者不

足の為、単身、彼は日本全国を飛び回っていた様だ。今の日本の交通網、鉄道を創設してくださった偉人である。日本各地を旅するとそれの町で偉人と言われている。人達を発見する。その方々は、全国的に有名な人もおられるが、まだまだ宣伝不足の為に各地で名前が埋もれてしまつている人達も多々見受けられる。しかし今の私達は、多かれ少なかれその偉人達の恩恵にあずかっている。化学者、ダム建設者、九鬼隆範氏の様な鉄道技術者、歴史を振り返るときそこには、感動と感謝とそして、IQの高さがある。(文・種村好)

九鬼奔流通信

2009. 春

Vol.007

発行：NPO法人 九鬼奔流で町おこしをする会

「九鬼奔流」創設十周年 苦節十年、迎えた春

「九鬼奔流」創設十周年 目指して十年 三田の歴史をテーマにした大河ドラマを実現し、三田の町おこしをしようと、「ドラマ九鬼奔流で町づくりをする会」を結成して早くも十年が経過しました。この

間、三代にわたって市長に歴史をテーマにした町づくりへの協力を訴えてきました。残念な思いをしてきました。竹内市長で展望開く 竹内市長になつてからは歴史や文化に理解が得られ、積極的に協力して頂けるようになりました。一気に展望が広がってきました。小学生向けのふるさと読本の発刊、旧公民館分室をふるさと学習館として九鬼住宅と一体の民族資料館として活用、更には九鬼隆一が日本では始めて



学も勉強したという。所詮、IQの高い人というのは、理数科系とか文化系とかにこだわらないのだなあとというのが実感だ。勝海舟の海軍操練所が、幕藩体制崩壊後閉鎖された後も、佐藤政養氏の塾で測量術や土木工学を修めている。その技術をもって設計された旧九鬼家住宅。神戸北野の異人館よりも20年も早い時期に建てられたという。この九鬼家住宅を拝見すると一階は単なる武家の住宅で、二階のテラスが洋風かなあと思うぐらいであつたが、現代の人達が、鑑賞する感覚とその当時の人達の感覚とを比べてみると時代背景が重くのしかかる。廃藩置県により九鬼隆義は神戸へ出て行き、それに伴って家臣達も追随した。三田の屋敷町は士分の在りわ

作つた私立三田博物館の石碑を元有つた場所に移設する等など。博物館の悲願かなう 思えば二〇〇五年の秋、有志集まつて「三田歴史博物館を創ろう会」を結成、前市長へお願いしたことが五年の歳月を経て、今実現の運びとなり、感慨一入です。川本幸民がお芝居に この様な中、演出家の中畑八郎氏が芝居「川本幸民伝」の脚本を完成、来年、生誕二百年の秋に市民劇団で実演しようと計画中です。市長も三田の観光を売り出す好機と、市の後援を約束されました。現在、俳優を募集中です。皆さん、出演してみませんか。(文・野上和雄)

動乱の時代を美しく生きた

大丸神戸店 『白洲次郎と白洲正子展』

「白洲次郎・正子展」 盛況に終わる 今年1月28日より 2月9日まで大丸百貨店神戸店9階で開催された「白洲次郎・正子展」は13日間に35、000人の入場者が訪れ盛況の内に幕を閉じました。 同展に合わせて冊子『白洲退蔵』を作成 当会では当初「白洲次郎」がNHKで2月に3回放映される

との情報をもとに、白洲次郎が三田と関係があることをもつと多くの人に知ってもらおうと、ヌーベル切り絵と共同でさんだ人物誌「白洲退蔵」を発売し「話題の男、白洲次郎」のパンフレットを挿入した。 初期30部の予想が700部を完売 NHKの放映が日延べした事もあり、大丸の書籍販売も多く売れないと判断され取敢えず30部位を持つてくるように指示されたが、会期から見ても少なすぎるので倍の60部を送ると、なんと1日で完売となり急遽追加注文をうけ、最終700部を完売しまし



大丸神戸店で開催の「白洲次郎・正子展」

た。 観光パンフ1500部配布、観光客激増 三田市観光協会のパンフレット「激動の時代を先駆けた白洲家三代の軌跡」1500部はあつというまになくなつてしまった。パンフレットを手にした人が、こんな近くの心月院に白洲次郎と正子の墓があることを知り、三田を訪れる人が増えている。 観光資源の発掘を！ 一寸したチャンスを見逃さず対応した結果、観光客が誘致でき経済効果も顕著に表れています。三田には観光資源が豊富で、これらの一つ一つを掘り起こし町おこしにつなげて行きたいと地道な活動を続けています。(文・高田義久)